

Katoh Gakuen Gyoshu

DP Parent's Handbook

2020



Table of Contents

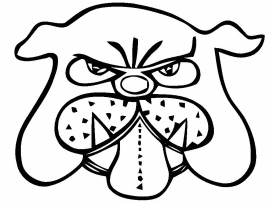
A. General 概観	4
1. Bilingual Program's Mission Statement ミッションステートメント	4
2. DP Curriculum Model カリキュラム モデル	4
3. The Hexagon Core -- DPの中核	5
3.1 Creativity, Activity and Service	5
3.2 Extended Essay自由課題論文	5
3.3 Theory of Knowledge 知の理論	6
B. Subject Selection Information 科目選択資料	7
1. DP Subjects Coverage 科目選択要件	7
2. DP Scoring 点数	7
3. Requirements for a Diploma 取得要件	8
4. Stages of the DP Subject Selection Process 科目選択決定手順	9
C. Course Description DP 教科内容	10
1. Japanese A Literature DP 「言語A：文学」HL（2021年11月試験）	11
2. English A Language and Literature -- 英語A高度レベル（言語と文学）	14
3. English B HL 英語B高度レベル（言語B）	15
4. Language ab initio SL -- IB言語ab initio（初級中国語）	16
5. History HSL -- IB歴史（標準、高度レベル）	17
7. Chemistry SL -- IB化学（標準レベル）	19
8. Physics SL -- IB物理（標準レベル）	20
9. Mathematics: Analysis and Approaches Higher Level -- IB数学（高度レベル）	21
10. Mathematics: Analysis and Approaches Standard Level -- IB数学（標準レベル）	23
12. Visual Arts 美術	26
13. Theory of Knowledge -- TOK（知の理論）	27
D. Various Policies and Explanations 各種評価方針と評価概要	28
1. Diploma Assessments DP評価	28
1.1 Types of DP Assessment 評価の種類	28
1.2 Internal and External Assessment Weightings 最終DP評価の組成 ◎内部評価と★外部評価	29
1.3 Internal Assessment ◎内部評価	30
1.4 External Assessment ★外部評価	31
1.5 CAS 創造性・活動・奉仕と Extended Essay 課題論文の評価	31
1.6 Failure to Submit DP Assessment Tasks DP内部評価課題と外部評価課題の提出について	32
1.7 Failure to Submit Performance task パフォーマンス課題の未提出に対する学内ペナ	

ルティ	33
2. CAS 「創造性・活動・奉仕」	34
3. Gyoshu Grade 評価通知指針：暁秀評価	36
3.1 IB Requirements 評価の報告方針とIB要件	36
3.2 Reporting Periods 成績を評価する期間	36
3.3 Weighting 暁秀成績	37
3.4 Examination Score 試験と試験スコア	37
3.5 Performance Task Score パフォーマンス課題と、パフォーマンス課題スコア	38
3.6 Effort Score 努力点	39
3.7 Calculating the Gyoshu Grade 暁秀成績の算出	41
3.8 Special Educational Needs 特別な教育的配慮	42
4. Diplomas, Results and Transcripts 大学進学関連：ディプロマ、試験結果、成績証明証	42
4.1 IB Diploma ディプロマ	42
4.2 IB Bilingual Diploma バイリンガルディプロマ	42
4.3 Results ディプロマ結果	43
4.4 Enquiry upon results 再採点	43
4.5 Re-sits 再試験	43
4.6 Predicted Grades 見込み点	43
4.7 High School Transcripts 高等学校卒業証書・成績証明書（調査書）	44
4.8 Transcripts 本校の成績証明書（英語表記）	44
6.9 IB Transcripts I B の成績証明書（I B で発行する）	44
6.10 Transcripts for Domestic Universities 出願先別成績証明書の種類	45
6.11 留意点	45
7. Support サポート内容	45
8. What successful DP students do 成功実践例	45
9. 3Z IB Fees 試験料など	46
10. 2Z Art Fees	46

A. General 概観

1. Bilingual Program's Mission Statement ミッションステートメント

"To nurture students to become active, wise and caring shapers of our multicultural & multilingual world"



多様な文化と言語が共存する世界を実現する担い手として、聡明で暖かい心を持った行動力のある人を育てます。

We want to develop 'internationally minded' students who will become global citizens, who UNDERSTAND about our world and because they understand, CARE and because they care, ACT to make a better world.

私たちは、地球市民になれるような世界的視野でものを見ることができる生徒を育てたいと思います。彼らは、まず**理解**して関心を持ち、**関心**を持つ故によりよい世界を目指して**行動**するでしょう。

2. DP Curriculum Model カリキュラム モデル



3. The Hexagon Core -- DPの中核

すべてのDP生が確実に取り組み、カリキュラムの中核を構成し、DP教育を総合的なものとしてまとめあげる内容になっています。これに拠って生徒が、多様な文化と言語が共存する世界を実現する担い手として聡明で暖かい心を持った行動力のある人を育てます。

3.1 Creativity, Activity and Service

創造的、身体的な鍛錬、コミュニティーにたいする奉仕の分野で活動を進めていくのがCASです。150時間以上の時間をCAS活動にあてることが期待されています。また、下記の7分野で結果を出していくことが期待されています。

1. Identify own strengths and develop areas for growth 自分の長所と成長すべき点を認識する
2. Demonstrate that challenges have been undertaken, developing new skills in the process 課題に挑戦し、その過程で新しいスキルを習得している
3. Demonstrate how to initiate and plan a CAS experience 自らCASを計画し開始することができる
4. Show commitment to and perseverance in CAS experiences CAS活動を継続し、やり遂げる粘り強さを示す
5. Demonstrate the skills and recognize the benefits of working collaboratively 自らのスキルを活かし、また他者と共に活動する意義を認識する
6. Demonstrate engagement with issues of global significance グローバルな課題に取り組む
7. Recognize and consider the ethics of choices and actions 選択と行動の倫理を認識し、考察する

卒業生たちも、CASを通して多くのものを獲得したという実感を持っており、大学出願の折にCASを通して成長できたことを述べている。

3.2 Extended Essay 自由課題論文

自由課題論文は、必須課題で、各自自由にトピックを選択して論文としてまとめ、IBが直接に評価するものです。トピックは、6教科群のどの領域に属するものでもかまいません。英語ならば4千語、日本語では8千字以内です。大学で、自主的にリサーチ論文を書くのを先取りして実施するものです。10ヶ月かけて、アドバイザーの指導のもとで完成させていきます。

課題論文とは：

- IBディプロマを取得するための必要条件。
- IB教科の分野のトピックについて深く学ぶ。
- 指導教師のサポートとともに進めていく自立研究。
- 厳格で全面的な教科評価基準に沿って、過程と完成作品の両面が評価される。

- 他の人の作品についてのレポートではないが、研究論文や権威のある文献を参照する。
- 研究を行い、自分の意見を加え、妥当性を評価し、結論を導く議論。
- 学術研究に関する作品。
- 4,000語。
- 指導教師が評価するのではなく、IBが直接評価をする。

3.3 Theory of Knowledge 知の理論

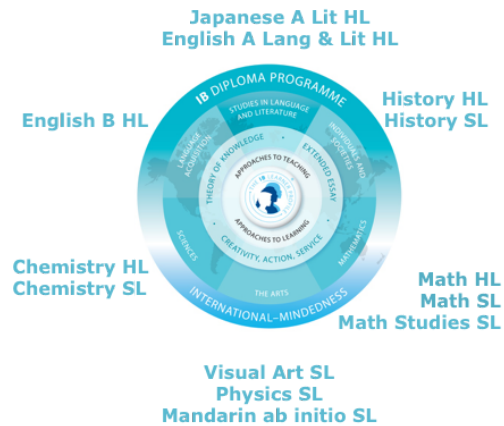
ToKは、全教科で扱う分析的な思考であり、無意識のうちの偏見や推測に拠って理解しがちな種々のことを取り上げます。合理的な議論に基づいて意見を述べ、他の文化的な視点を評価できるようにします。

ToKの授業で、ToKの概念について話し合いがなされる一方で、ToKの手法を教科の中で焦点を当てて応用します。最終年にToKの論文を書き、それについてのプレゼンテーションをします。

B. Subject Selection Information 科目選択資料

1. DP Subjects Coverage 科目選択要件

- Choose 6 subjects
6科目を選択する
- 1 subject from each group
各群から1科目
- 3 subjects must be HL
3科目は高度レベル
- The remaining are SL
他の3科目は標準レベル



2. DP Scoring 点数

- Each subject is graded out of **7**.
各教科とも7段階評価
- There are a total of (6 X 7) **42** points awarded for subjects.
教科合計の最高点は、**42**点(7点 x 6教科)
- There are **3** bonus points for Extended Essay and TOK.
自由課題論文とToKに対するボーナス加点は、**0~3**点まで
- In total, it is possible to get **45** points.
合計で、最高点は**45**

TOK and EE grades are used to calculate diploma scores using the rubric below.

TOKと自由課題論文の総合評価の点数換算表

Theory of Knowledge

		Excellent	Good	Satisfactory	Mediocre	Elementary	Not submitted	
		A	B	C	D	E		
E x t e n d e d	Excellent A	3	3	2	2	Fail		
	Good B	3	2	1	1			
	Satisfactory C	2	1	1	0			
	Mediocre D	2	1	0	0			
E s s a y	Elementary E	Fail						
	Not submitted	Fail						

3. Requirements for a Diploma 取得要件

Below is a summary of some of the basic requirements all students should aim to achieve in order to receive a Diploma. フルディプロマ取得のための要件を下記に表としてまとめました。

Summary of basic requirements 取得要件まとめ

Minimum of 24 points	24点以上
+	
CAS completed	C A S 充足
+	
A grade of at least a D in <u>both</u> TOK & EE	E E と T o K の両方で最低D以上
+	
At least 12 points gained in HL subjects	ハイヤーレベルで12以上
+	
At least 9 points gained in SL subjects	スタンダードで9以上
+	
All subjects grades are higher than 1	1があってはいけない
+	
Grade 2 has been awarded less than three times	2が3つあってはいけない
+	
No more than one grade 2 at SL	スタンダードで2をひとつ以上取らない
=	
Award of IB diploma	ディプロマの取得

Non-completion

規定の課題提出が無い場合は、該当科目に関しての点数が決められず、該当科目の点数が出ない。

Non-submission

T o K や自由課題論文の提出が無い場合は、ディプロマは失格

4. Stages of the DP Subject Selection Process 科目選択決定手順

Stage 1: Subject Selection meeting

第1段階： 科目選択の面談

Complete Subject Interest Form (Oct 19)

科目選択用のフォームに記入して提出(10月19日までに)

Stage 2: Meet with Nobuko-sensei and DP coordinator (October-November)

第2段階： 教師(ウェンドフェルト・サットン)と面談 (10-11月)

Stage 3: Complete Final Subject Selection Form (Parent-Student-Teacher meeting)

第3段階： 最終決定を科目選択用フォームに記入して提出
(3者面談)

C. Course Description DP 教科内容



1. Japanese A Literature DP 「言語A：文学」 HL (2021年11月試験)

□ ねらいと目標

- 多様なテキストを分析、鑑賞したことを表現していくことで、グローバルな文脈における文学的役割を探究する。
- 他者との協働作業によって、コミュニケーション能力を伸ばし、生涯にわたって文学に関心をもつ姿勢を育む。

ねらい	目標
1. 多様なテキストに触れる (形式、スタイル、文化、時代、社会)	1. 知識、理解、解釈 ・表現技法に関する知識 ・文学形式の特徴に関する知識 ・作品が書かれた文脈、受け手の文脈を理解する。 ・作品が示唆するもの、意味を理解、解釈する。 ・テキスト間の類似点、相違点を解釈する。 2. 分析と評価 ・表現上の選択がどのような意味を生成するかを分析する。 ・表現技法の使用と効果を分析する。 ・様々なテキスト間の関係性を比較し、評価する。 ・作品をグローバルな問題という観点で評価する。 3. コミュニケーション ・明確で論理的、説得力のある表現。 ・目的と状況に応じた、多様なスタイルや言語使用域の活用。
2. パフォーマンススキルを伸ばす (話す、聞く、読む、書く、見る、発表する)	
3. 思考スキルを伸ばす (解釈、分析、評価、批評、立論)	
4. 鑑賞力を磨く (審美的読解、多様な解釈、複数の視点)	
5. 現代社会の中での理解を深める (現代の社会や文化との関連、地域とグローバルな問題)	
6. 他の教科との関係性への理解を深める	
7. コミュニケーション能力を駆使して協働する	
8. 生涯にわたって学ぶ姿勢を育む	

□ コース要件

作品：13作品	時間：240時間
3つの時代	4つの国／地域（2つの大陸を含む）
日本語の原作5つ	PRL作家の翻訳作品4つ
	自由選択4つ

*PRL：prescribed reading list (指定作品リスト)

□ 学習者ポートフォリオ

2年間を通して集め、評価のための準備の基礎とする。
 生徒の学習の場とすると共に、その軌跡を残し、振り返るものとする。
 *DP取得後、6か月間はポートフォリオを保持する必要がある。

□ 探究領域

- 読者、作者、テキスト
 - 作家の意図や意味が作り出される方法を学ぶ。
 - 意味の構築における読者の役割を探究する。
 - 文学の芸術的本質を理解する。
- 時間と空間
 - 文学が社会を映し出す鏡となることを鑑み、文化的、歴史的な文脈を時空を越えて探究する。
 - 文学が文化とアイデンティティーに与える影響を考察する。
 - テキスト間の関係性が果たす役割、自己と他者、地域と世界がつながる方法を理解する。
- テキスト間相互関連性：テキストをつなげる
 - 多様な文学テキスト、伝統、創作者、考えのつながりを探究する。
 - 文学テキストの特性と複雑な関連性について洞察する。
 - 多様な文学テキストの類似点と相違点を分析する。

□ 概念的理解

概念学習：

- ・ 教科を超えた広い領域における関連性を意識し、人間の知のひとつの領域として文学を学ぶ。
- ・ 3つの探究領域にまたがって作品の学習を組織的に導く。
- ・ 下記の7つの概念で探究していく。

7つの概念	アイデンティティー Identity	文化 Culture	創造性 Creativity
コミュニケーション Communication	ものの見方(観点) Perspective	変換 Transformation	表現 Representation

□ 試験

	評価要素	内容	配点	比率
外部評価	● 問題1 (2時間15分)	<u>設問付き文学分析</u> 文学形式の異なる初見の2つの課題文について、分析する。	40点	35%
	● 問題2 (1時間45分)	<u>比較小論文</u> コースで学習した2つの作品に基づいて比較小論文を書く。 *事前に扱う3作品を決めておく。	30点	25%
	● HL小論文	コースで学習した1つの文学テキスト/作品について小論文を書く。(2400字~3000字) *外部評価の問題2と内部評価で使用する作品は選択できない。	20点	20%
内部評価	● 個人口述試験 (15分) 10分発表+5分質疑応答	日本語の原作1つの抜粋、翻訳作品1つの抜粋から、予め用意した回答を10分間で発表する。 その後、5分間質疑応答。 *質問：「自分で選んだグローバルな問題が、学習した2つの作品の内容と形式を通してどのように表現されているか分析しなさい。」	40点	20%

□ 求められる学習要素

- ATLを基本とした主体的な学習姿勢
 - 思考スキル
 - コミュニケーションスキル
 - 社会性スキル
 - 自己管理スキル
 - リサーチスキル

- 学習者ポートフォリオの活用

- 読書記録
- 授業後の学び、学びの変化
- テキストと概念の関連性
- グローバルな問題との関連性

最終試験の
試験問題2、HL小論文、個人口述試験
に活用する。

*Google classroomなどを活用予定。

- グローバルな問題に対する関心、記録

- ニュースを見たり、新聞を読んだりして、グローバルな問題に関心をもつ。
- 記事の保存、問題に対する自分の考えを記録する。
- 扱っている作品との関連性を見出し、描かれ方に注目する。

内部評価の個人口述試験に活用する。

- ToKとの関連付け

- 人間の経験の本質を探り、個人的見解がどのように構築され、表現されるのかを探究する。
- 他者の観点に気づき、自分自身の個人的見解について再認識する。
- テキストを通してどのように意味が作り出されるのか、批判的思考と振り返りを行う。



「知るための方法」と「知識に関する問い」を検証する能力を培う。

2. English A Language and Literature -- 英語A高度レベル (言語と文学)

Course Aims コースの目的、目標

1. engage with a range of texts, in a variety of media and forms, from different periods, styles, and cultures 各種の時代や文体や文化から各種のメディアや形態の幅広い文書に取り組む
2. develop skills in listening, speaking, reading, writing, viewing, presenting and performing リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、ビューイング、プレゼンテーション、パフォーマンスのスキルを伸張させる
3. develop skills in interpretation, analysis and evaluation 解釈、分析、評価のスキルを伸張させる
4. develop sensitivity to the formal and aesthetic qualities of texts and an appreciation of how they contribute to diverse responses and open up multiple meanings テキストの形式および美的レベルに対する感性を育て、それが多様な形で、複数の意味を理解する方法を理解する
5. develop an understanding of relationships between texts and a variety of perspectives, cultural contexts, and local and global issues and an appreciation of how they contribute to diverse responses and open up multiple meanings .テキストとさまざまな視点、文化的背景、ローカルおよびグローバルな問題との関係の理解を深め、それらが多様な反応にどのように貢献し、複数の意味を導き出すのかを理解する
6. develop an understanding of the relationships between studies in language and literature and other disciplines 言語と文学の研究と他の学問との関係の理解を深める
7. communicate and collaborate in a confident and creative way 自信を持って創造的な方法でコミュニケーションとコラボレーションを行う
8. foster a lifelong interest in and enjoyment of language and literature. 言語と文学に対する生涯にわたる関心と楽しみを育む。

Course Description コース説明

In this course, students study a wide range of literary and non-literary texts in a variety of media. By examining communicative acts across literary form and textual type alongside appropriate secondary readings, students will investigate the nature of language itself and the ways in which it shapes and is influenced by identity and culture. Approaches to study in the course are meant to be wide ranging and can include literary theory, sociolinguistics, media studies and critical discourse analysis among others. このコースでは、生徒はさまざまなメディアで幅広い文学および文学外のテキストを学びます。適切な副読本を使って文学形式とテキスト形式のコミュニケーションを調べることにより、言語自体の性質と、アイデンティティと文化によって影響を受ける受け方を調査します。コースで学習するためのアプローチは、幅広く、文学理論、社会言語学、メディア研究、批判的談話分析などが含まれます。

There are three parts to this course. コースの内容は、3つに分かれています。

1. Readers, writers and texts 読者、作者、テキスト
2. Time and space 時間と空間
3. Intertextuality: connecting texts テキスト間性：テキストをつなぐ

IB Assessment 評価

20% Internal Assessment 内部評価

- Individual oral (20%)

80% External Assessment 外部評価

- HL essay (20%)
- Paper 1 (35%)
- Paper 2 (25%)

3. English B HL 英語B高度レベル (言語B)

Course Objectives コースの目的、目標

1. Communicate clearly and effectively in a range of contexts and for a variety of purposes. 多様な目的や場面で明確かつ効果的にコミュニケーションができるようにする。
2. Understand and use language appropriate to a range of interpersonal and/or intercultural contexts and audiences. 言語を十分に理解して、多様な個人間・文化間でのコンテキストや聴衆を対象にして活用できるようにする。
3. Understand and use language to express and respond to a range of ideas with fluency and accuracy. 多様な考えに応答、意見を述べるために正確かつ流暢に言語を理解表現できるようにする。
4. Identify, organize and present ideas on a range of topics. 多様なトピックに関して考えをまとめ発表することができるようにする。
5. Understand, analyse and reflect upon a range of written, audio, visual and audio-visual texts. 文書、オーディオ、映像、オーディオ映像の各種文書を分析し理解できるようにする。

Course Description

English B is a language acquisition course designed for students with some previous experience of the target language. In the English B course, students further develop their ability to communicate in the target language through the study of language, themes and texts. In doing so, they also develop conceptual understandings of how language works, as appropriate to the level of the course. 英語Bは、上級者用言語習得コースで、それまでにある程度の該当言語の既習が期待されている。英語Bコースでは、言語・テーマ・文献の学びを通して英語コミュニケーション能力を伸張させます。同時に、コースレベルにあった言語がどのように機能するのかを理解します。

Themes テーマ

1. Identity アイデンティティ
2. Experiences 経験
3. Human ingenuity 人間の創意工夫
4. Social organization 社会構造
5. Sharing the planet 地球の共有

IB Assessment 評価

25% Internal Assessment 内部評価 - Individual oral (25%) オーラル	75% External Assessment 外部評価 - Examinations paper 1 (25%), paper2 (50%) 試験 1、2
--------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

4. Language ab initio SL -- IB言語ab initio (初級中国語)

教材： 入門中国語初級、中国語実習コース

コースの目的、目標：

基本的文法を習得し、日常生活における一般的な会話や文章などの聞く、話す、読む、書く力を身につけることが求められる。

コース説明：

この授業は、絵やテープ、CDなど諸教材を使って、個人発表、グループ会話、校外実習、通訳、翻訳、作文などの形で行ないます。

IB評価：

External assessment 外部評価

Paper 1 (1 hour) 試験1 1時間

- Productive skills—writing 表現スキル：作文

Paper 2 (1 hour 45 minutes) 試験2 1時間45分

- Receptive skills—separate sections for listening and reading 受容スキル：リスニングとリーディングの各セクション

Internal assessment 内部評価

Individual oral assessment 個別オーラル評価

- A conversation with the teacher, based on a visual stimulus and at least one additional course theme. 指定された絵と1つ以上のコーステーマについて教師と対話

5. History HSL -- IB歴史（標準、高度レベル）

Course Aims コースの目的、目標

- develop an understanding of, and continuing interest in, the past 過去の事象についての理解と継続的関心を伸ばす
- encourage students to engage with multiple perspectives and to appreciate the complex nature of historical concepts, issues, events and developments 多面的視野を持ち、歴史的概念、事項、事象とその展開の複雑さを包括的に理解する
- promote international-mindedness through the study of history from more than one region of the world 世界の複数地域の歴史を学ぶことによって国際的視野を養う
- develop an understanding of history as a discipline and to develop historical consciousness including a sense of chronology and context, and an understanding of different historical perspectives 学問としての歴史理解を高め、年代やその背景、多様な歴史認識を理解することで歴史感覚を育てる
- develop key historical skills, including engaging effectively with sources 資料を効果的に扱うことにより重要な歴史スキルを伸ばす
- increase students' understanding of themselves and of contemporary society by encouraging reflection on the past. 過去を振り返ることにより、現代社会や自己理解やを高める

Course Description コース説明

History is divided into High Level and Standard Level. Both High Level and Standard Level students cover the same modern world history content. In addition, High Level students make in depth studies into three aspects of East Asian Modern History. All students are required to complete a Historical Investigation. 標準レベルと高度レベルがある。近代史については、共通の授業となる。高度レベル選択者は、これに加えて、東アジア史の3領域について深く掘り下げた授業をとる。共通して、歴史のリサーチプロジェクトも仕上げることになる。

High Level and Standard Level 共通内容

Prescribed Subjects

The move to global war 世界大戦への動き

- Case study 1: Japanese expansion in East Asia (1931–1941) 東アジアにおける日本の勢力拡張
Case study 2: German & Italian expansion ドイツ・イタリアの勢力拡張 (1933-1940)

World History Topics

Topic 10: Authoritarian states (20th century) 独裁国家

- Nazi Germany ドイツナチ政権
- Wartime Japan 戦中日本
- China under Mao 毛沢東の中国

Topic 11 Causes & effects of 20th-century wars 20世紀戦争原因と影響

- World War I 第1次世界大戦
- Spanish Civil War スペイン内戦
- World War II 第2次世界大戦
- Chinese Civil War 中国内戦

High Level only 高度のみ

In Depth Studies

Section 7. Challenges to traditional East Asian societies 東アジア国家の危機 (1700-1868)

- Challenges from the West to Qing China and Tokugawa Japan 清王朝と徳川幕府への西洋諸国からの圧力

Section 9: Early modernization & imperial decline in East Asia (1860–1912) 東アジア近代化初期と帝国の没落

- Reform in 19th Century China, Japan & Korea 19世紀の改革 日本、中国、朝鮮

Section 11: Japan (1912–1990) 日本

- Taisho & Showa Japan 大正、昭和

IB Assessment 評価

Standard Level 標準 レベル	25% Internal Assessment 内部評価 ● Historical Investigation (25%)	75% External Assessment 外部評価 ● Examinations paper 1 (30%), 2 (45%)
High Level 高度レベル	20% Internal Assessment 内部評価 ● Historical Investigation (20%)	80% External Assessment 外部評価 ● Examinations paper 1 (20%), 2 (25%), 3 (35%)

6. Chemistry HL -- IB化学 (高度レベル)

Aims コース目標

1. appreciate scientific study and creativity within a global context through stimulating and challenging opportunities
刺激的でやりがいのある活動を通して、世界的な視野に基づく科学的学習と創造性を理解する。
2. acquire a body of knowledge, methods and techniques that characterize science and technology
科学とテクノロジーを構成する知識や方法、技術体系を習得する。
3. apply and use a body of knowledge, methods and techniques that characterize science and technology
科学とテクノロジーを構成する知識や方法、技術体系を応用し、用いる。
4. develop an ability to analyse, evaluate and synthesize scientific information
科学的情報を分析、評価、統合する能力を養う。
5. develop a critical awareness of the need for, and the value of, effective collaboration and communication during scientific activities
科学的活動を通して、効果的な協調性とコミュニケーションの必要性や価値に対する認識を養う。
6. develop experimental and investigative scientific skills including the use of current technologies
現在のテクノロジーの活用を含め、実験的で探究的な科学技能を養う。
7. develop and apply 21st-century communication skills in the study of science
科学の学習における21世紀のコミュニケーション技能を発展させ、応用する。
8. become critically aware, as global citizens, of the ethical implications of using science and technology
世界市民として、科学とテクノロジーを用いる際の倫理的意味合いを批判的に認識する。
9. develop an appreciation of the possibilities and limitations of science and technology
科学とテクノロジーの可能性と限界に対する認識を発展させる。
10. develop an understanding of the relationships between scientific disciplines and their influence on other areas of knowledge. 科学的領域と、他の知識分野への影響との関係を理解する。

Course Overview コース内容

Core Syllabus component 必修	Hours 時間	Option (one of the following) オプション(下記より1つのトピック)	Hours 時間
1. Stoichiometric relationships 化学量論	13.5	a. Materials 物質	25
2. Atomic Structure 原子構造	8	b. Biochemistry 生化学	25
3. The periodic table 周期表- 遷移金属	4	c. Energy エネルギー	25
4. Chemical bonding and structure 化学結合と構造	20.5	d. Medicinal chemistry 医薬品化学	25
5. Energetics/ thermochemistry エネルギー論/熱化学	9		
6. Chemical kinetics 反応速度論	13		
7. Equilibrium 平衡	8.5		
8. Acids and bases 酸と塩基	16.5		
9. Redox processes 酸化還元	14		
10. Organic Chemistry 有機化学	23		
11. Measurement and data processing 測定とデータ処理	12		

IB Assessment 評価

20% Internal Assessment 内部評価	80% External Assessment 外部評価
<ul style="list-style-type: none"> ● Practical Scheme of Work 活動計画 (20%) 	<ul style="list-style-type: none"> ● Examinations paper 1 (20%), 2 (36%), 3 (24)

7. Chemistry SL -- IB化学 (標準レベル)

Aims コース目標

1. appreciate scientific study and creativity within a global context through stimulating and challenging opportunities
刺激的でやりがいのある活動を通して、世界的な視野に基づく科学的学習と創造性を理解する。
2. acquire a body of knowledge, methods and techniques that characterize science and technology
科学とテクノロジーを構成する知識や方法、技術体系を習得する。
3. apply and use a body of knowledge, methods and techniques that characterize science and technology
科学とテクノロジーを構成する知識や方法、技術体系を応用し、用いる。
4. develop an ability to analyse, evaluate and synthesize scientific information
科学的情報を分析、評価、統合する能力を養う。
5. develop a critical awareness of the need for, and the value of, effective collaboration and communication during scientific activities
科学的活動を通して、効果的な協調性とコミュニケーションの必要性や価値に対する認識を養う。
6. develop experimental and investigative scientific skills including the use of current technologies
現在のテクノロジーの活用を含め、実験的で探究的な科学技能を養う。
7. develop and apply 21st-century communication skills in the study of science
科学の学習における21世紀のコミュニケーション技能を発展させ、応用する。
8. become critically aware, as global citizens, of the ethical implications of using science and technology
世界市民として、科学とテクノロジーを用いる際の倫理的意味合いを批判的に認識する。
9. develop an appreciation of the possibilities and limitations of science and technology
科学とテクノロジーの可能性と限界に対する認識を発展させる。
10. develop an understanding of the relationships between scientific disciplines and their influence on other areas of knowledge. 科学的領域と、他の知識分野への影響との関係を理解する。

Course Overview コース内容

Core Syllabus component 必修	Hours 時間	Option (one of the following) オプション(下記より1つのトピック)	Hours 時間
1. Stoichiometric relationships 化学量論	13.5	a. Materials 物質	15
2. Atomic Structure 原子構造	6	c. Biochemistry 生化学	15
3. Periodicity 周期性	6	c. Energy エネルギー	15
4. Chemical bonding and structure 化学結合と構造	23.5	e. Medicinal chemistry 医薬品化学	15
5. Energetics/ thermochemistry エネルギー論/熱化学	9		
6. Chemical kinetics 反応速度論	7		
7. Equilibrium 平衡	4.5		
8. Acids and bases 酸と塩基	6.5		
9. Redox processes 酸化還元	8		
10. Organic Chemistry 有機化学	11		
11. Measurement and data processing 測定とデータ処理	15		

IB Assessment 評価

20% Internal Assessment 内部評価	80% External Assessment 外部評価
<ul style="list-style-type: none"> Practical Scheme of Work 活動計画 (20%) 	<ul style="list-style-type: none"> Examinations paper 1 (20%), 2 (40%), 3 (20%)

8. Physics SL -- IB物理 (標準レベル)

Aims コース目標:

1. appreciate scientific study and creativity within a global context through stimulating and challenging opportunities 刺激的でやりがいのある活動を通して、世界的な視野に基づく科学的学習と創造性を理解する。
2. acquire a body of knowledge, methods and techniques that characterize science and technology 科学とテクノロジーを構成する知識や方法、技術体系を習得する。
3. apply and use a body of knowledge, methods and techniques that characterize science and technology 科学とテクノロジーを構成する知識や方法、技術体系を応用し、用いる。
4. develop an ability to analyse, evaluate and synthesize scientific information 科学的情報を分析、評価、統合する能力を養う。
5. develop a critical awareness of the need for, and the value of, effective collaboration and communication during scientific activities 科学的活動を通して、効果的な協調性とコミュニケーションの必要性や価値に対する認識を養う。
6. develop experimental and investigative scientific skills including the use of current technologies 現在のテクノロジーの活用を含め、実験的で探究的な科学技能を養う。
7. develop and apply 21st-century communication skills in the study of science 科学の学習における 21 世紀のコミュニケーション技能を発展させ、応用する。
8. become critically aware, as global citizens, of the ethical implications of using science and technology 世界市民として、科学とテクノロジーを用いる際の倫理的意味合いを批判的に認識する。
9. develop an appreciation of the possibilities and limitations of science and technology 科学とテクノロジーの可能性と限界に対する認識を発展させる。
10. develop an understanding of the relationships between scientific disciplines and their influence on other areas of knowledge. 科学的領域と、他の知識分野への影響との関係を理解する。

Course Overview: コース内容:

Core Syllabus component 必修	Hours 時間	Option (one of the following) オプション(下記より 1 つのトピック)	Hours 時間
1. Measurements and uncertainties 測定と不確定性	5	a. Relativity 相対性原理	15
2. Mechanics 力学	22	b. Engineering physics 工学物理学	15
3. Thermal physics 熱物理学	11	c. Imaging イメージング	15
4. Waves 波	15	d. Astrophysics 天体物理学	15
5. Electricity and magnetism 電気と磁力	15		
6. Circular motion and gravitation 円運動と重力	5		
7. Atomic, nuclear and particle physics 原子物理学、核物理学、素粒子物理学	14		
8. Energy production エネルギー生産	8		

IB Assessment 評価

20% Internal Assessment 内部評価	80% External Assessment 外部評価
<ul style="list-style-type: none"> Practical Scheme of Work 活動計画 (20%) 	<ul style="list-style-type: none"> Examinations paper 1 (20%), 2 (40%), 3 (20%)

9. Mathematics: Analysis and Approaches Higher Level -- IB数学 (高度レベル)

Course Aims and Objectives コースの目的、目標

The aims of all DP mathematics courses are to enable students to コースの目的：

- develop a curiosity and enjoyment of mathematics, and appreciate its elegance and power 数学に対する知的好奇心と楽しみを求めその優美さとパワーを堪能する
- develop an understanding of the concepts, principles and nature of mathematics 数学の概念、原則、特性について理解を深める
- communicate mathematics clearly, concisely and confidently in a variety of contexts 数学のあらゆる局面で明確かつ簡潔に自信を持ってコミュニケーションできる
- develop logical and creative thinking, and patience and persistence in problem solving to instill confidence in using mathematics 論理的かつ創造的思考を展開する中で忍耐と根気強さで数学に取り組み、数学に対する自信をつけさせる
- employ and refine their powers of abstraction and generalization 抽象化と一般化の実力を高め適用する
- take action to apply and transfer skills to alternative solutions, to other areas of knowledge and to future developments in their local and global communities 他の知的領域や将来にわたって地元地域やグローバルコミュニティーに貢献すべく、数学スキルを応用適用する活動をする
- appreciate how developments in technology and mathematics influence each other 技術と数学の進展が相互にどのように影響し合うかを認識する
- appreciate the moral, social and ethical questions arising from the work of mathematicians and the applications of mathematics 数学や数学の応用によって、道徳的、社会的、倫理的問題が発生するかを認識する
- appreciate the universality of mathematics and its multicultural, international and historical perspectives 数学の普遍性、多文化性や国際性および歴史的視点を認識する
- appreciate the contribution of mathematics to other disciplines, and as a particular “area of knowledge” in the TOK course 他の分野への数学の貢献を認識し、TOKの知の領域として捉える
- independently and collaboratively extend their understanding of mathematics 数学の理解を個別にも他と共同して深める

The objectives of the course are to enable students to コースの目標：

- demonstrate an understanding of mathematical modeling 数学的モデルを理解し表現する
- use correct mathematical notations and terminology, mathematical argument and logic 正しい数学表記、専門用語、数学的議論や論理を使用する
- analyze patterns and structures, significance and reasonableness of results 傾向、構成、結果の意義や妥当性を分析する
- use technologies and appropriate mathematical strategies and techniques 科学技術の利用、適切な数学的方法や技術を活用する

Course Description コース説明

Mathematics: Analysis and Approaches HL has a strong emphasis on the ability to construct, communicate and justify correct mathematical arguments. Students who wish to take this course will have a good background of mathematics, have strong algebraic skills and the ability to understand simple proofs. The subject caters to students who enjoy spending time with math problems and get pleasure and satisfaction from solving challenging problems, with or without technology. The majority of these students will be expecting to include mathematics as a major component of their university studies, either as a subject in its own right or within courses such as medicine, physics, engineering and technology.

数学: Analysis and Approaches HLでは、正しい数学論を構成し表現し、その正当性を証明することに重点を置きます。このコースを選択する生徒は、確固とした数学の実力があり、かなりの代数の実力に加えて簡単な証明を理解できなければならない。数学の問題に取り組むのに喜びを覚え、問題を解くことで満足感を感じられる生徒に適している。大学での専攻で数学を中心的に学ぶことを予定していて、数学、医学、物理、工学、技術の分野を専攻する人に適している。

The course will cover five core topics namely:

Syllabus Component 授業内容	Suggested teaching hours
Topic 1 – Numbers and Algebra -数と代数	39
Topic 2 – Functions 関数	32
Topic – Geometry and Trigonometry 幾何学と三角法	51
Topic 4 – Statistics and Probability 統計と確率	33
Topic 5 - Calculus 微積分	55
Toolkit** and Math exploration と数学の探求	30
Total Teaching time 総授業時間数	240 *

*Additional topics taken beyond AA-SL syllabus include: Complex Numbers, Real Polynomials, Further Functions, Counting Techniques, Mathematical Induction, Linear Algebra, Vectors, Maclaurin Series, Differential Equations, Advance Statistics, etc. AA-SLシラバスに加えて以下の内容分野も追加分野として扱うことは可能、複素数、実数多項式、高度関数、カウント手法、数学的帰納法、線形代数、ベクトル、マクラウリン級数、微分方程式、高度統計など

IB Assessment 評価

20% Internal Assessment 内部評価	80% External Assessment 外部評価
<ul style="list-style-type: none"> Math Exploration 数学の探求 (20%) 	<ul style="list-style-type: none"> Examination 試験 paper 1 (30%), paper 2 (30%), paper 3 (20%)

10. Mathematics: Analysis and Approaches Standard Level -- IB数学 (標準レベル)

The objectives of the course are to enable students to コースの目標:

- demonstrate an understanding of mathematical modeling 数学的モデルへの理解を示す
- use correct mathematical notations and terminology, mathematical argument and logic 正しい数学的表記、専門用語、数学的議論や論理
- analyze patterns and structures, significance and reasonableness of results 傾向、構成、結果の意義や妥当性について分析
- use technologies and appropriate mathematical strategies and techniques 科学技術の利用、適切な数学的方法や技術を身に付ける

Course Description コース説明

Mathematics: Analysis and Approaches SL includes topics that are both traditionally part of a pre-university mathematics course, as well as topics that are amenable to investigation, conjecture and proof. This course caters to students who already possess knowledge of basic mathematical concepts and who are equipped with the skills needed to apply simple mathematical techniques correctly. Students who choose this course should be comfortable in the manipulation of algebraic expressions and enjoy the recognition of patterns and understand the mathematical generalization of these patterns. They will be those who enjoy the thrill of mathematical problem solving and generalization. This course will prepare the students for future studies in subjects such as university mathematics, chemistry, economics, psychology and business administration.

Analysis and Approaches SLコースは、大学準備コースの位置付けで、調査、推測、証明をする。また、既に基本的な数学の知識を持ち、正しく基礎数学技術を使える生徒を対象としたものである。代数式を不自由なく扱い、数学のパターンを無理なく認識し、それらのパターンの一般化が理解ができる。これは大学での数学、化学、経済、心理学、経営の分野に進む生徒の準備となる。

The course consists of the study of five core topics, namely コースは6つの分野を含む:

Syllabus Component 授業内容	Suggested teaching hours
Topic 1 – Numbers and Algebra 数と代数	19
Topic 2 – Functions 関数	21
Topic – Geometry and Trigonometry 幾何学と三角法	25
Topic 4 – Statistics and Probability 統計と確率	27
Topic 5 - Calculus 微積分	28
Toolkit** and Math exploration と数学の探求	30
Total Teaching time 総授業時間数	150

** Toolkit – this includes investigative, problem-solving and modelling skills development leading to the individual mathematical exploration

IB Assessment 評価

20% Internal Assessment 内部評価	80% External Assessment 外部評価
<ul style="list-style-type: none"> • Math Exploration 数学の探求 (20%) 	<ul style="list-style-type: none"> • Examinations 試験 paper 1 (40%), paper 2 (40%)

11. Mathematics: Applications and Interpretations Standard Level

数学 A I : アプリケーションと解釈 (スタンダードレベル)

The aims of the course are to enable students to コースの目標

- develop a curiosity and enjoyment of mathematics, and appreciate its elegance and power
数学に好奇心を持ち、楽しみを見つけ、その優雅さと力を知る
- develop an understanding of the concepts, principles and nature of mathematics 数学の概念、原則、性質の理解を深める
- communicate mathematics clearly, concisely and confidently in a variety of contexts
さまざまな状況で数学を明確、簡潔、自信を持って伝える
- develop logical and creative thinking, and patience and persistence in problem solving to instil confidence in using mathematics
論理的で創造的な思考、問題解決における忍耐力と粘り強さを養い、数学を活用する自信を深める
- employ and refine their powers of abstraction and generalization
抽象化と一般化の力をつけ、洗練させていく
- take action to apply and transfer skills to alternative situations, to other areas of knowledge and to future developments in their local and global communities
スキルを別の状況、他の知識分野、また、ローカルおよびグローバルコミュニティの将来の発展に適用したり移転したりするための行動をとる
- appreciate how developments in technology and mathematics influence each other
テクノロジーと数学の進歩が互いにどのように影響し合うのかを理解する
- appreciate the moral, social and ethical questions arising from the work of mathematicians and the applications of mathematics
数学者の業績と数学の応用から生じる道徳的、社会的、倫理的問題を理解する
- appreciate the universality of mathematics and its multicultural, international and historical perspectives
数学の普遍性と、その多文化的、国際的、歴史的展望を理解する
- appreciate the contribution of mathematics to other disciplines, and as a particular “area of knowledge” in the TOK course
他の分野への数学の貢献、およびTOKコースの特定の「知識分野」としての価値を認める
- develop the ability to reflect critically upon their own work and the work of others independently and collaboratively extend their understanding of mathematics.
自分の作品と他の人の作品をそれぞれ分析的に振り返り、協力して数学の理解を広げる能力を養う

Course Description コース説明

This course recognizes the increasing role that mathematics and technology play in a diverse range of fields in a data-rich world. As such, it emphasizes the meaning of mathematics in context by focusing on topics that are often used as applications or in mathematical modelling. To give this understanding a firm base, this course also includes topics that are traditionally part of a pre-university mathematics course such as calculus and statistics. このコースでは、データで溢れる世界のさまざまな分野で数学とテクノロジーが果たす役割の重要性を認識します。そのため、アプリケーションとして、または数学的モデル化でよく使用されるトピックに焦点を当てることで、数学を各文脈での意味に焦点を当てます。理解を確固たる基盤とするために、このコースには、従来大学入学前の数学コースとしての計算や統計などのトピックも含まれています。

The course makes extensive use of technology to allow students to explore and construct mathematical models. Mathematics: applications and interpretation will develop mathematical thinking, often in the context of a practical problem and using technology to justify conjectures. このコースでは、生徒が数学モデルを探求および構築できるように、テクノロジーを駆使します。 数学

AI（アプリケーションと解釈）は、数学的な思考を伸ばします。多くの場合、実践的な問題とテクノロジーを使用して推測したことを正当化します。

The course consists of the study of five core topics, namely コースは6つの分野を含む

Syllabus Component 授業内容	Suggested teaching hours
Topic 1 – Numbers and Algebra 数と代数	16
Topic 2 – Functions 関数	31
Topic – Geometry and Trigonometry 幾何学と三角法	18
Topic 4 – Statistics and Probability 統計と確率	36
Topic 5 - Calculus 微積分	19
Toolkit** and Math exploration と数学の探求	30
Total Teaching time 総授業時間数	150

** Toolkit – this includes investigative, problem-solving and modelling skills development leading to the individual mathematical exploration ツールキット：個々の数学的調査につながる調査、問題解決、数学のモデル化のスキル開発を含みます。

IB Assessment 評価

20% Internal Assessment 内部評価	80% External Assessment 外部評価
<ul style="list-style-type: none"> ● Math Exploration 数学の探求 (20%) 	<ul style="list-style-type: none"> ● Examinations 試験 paper 1 (40%), paper 2 (40%)

12. Visual Arts 美術

The aims/objectives of this course are コースの目的、目標:

- Make artwork that is influenced by personal and cultural contexts 個人や文化に影響を受けて美術作品を仕上げる
- Become informed and critical observers and makers of visual culture and media 視覚文化やメディアを理解し、分析的視点を持った上で制作する
- Develop skills, techniques and processes in order to communicate concepts and ideas. 概念やアイデアを伝えるためスキル、テクニック、制作プロセスを身につける

Course Description コース説明

Throughout this course, students examine visual art through various historical, contemporary and cultural contexts. Students also develop skills and techniques through inquiry-based, self-directed research in the visual arts, culminating in a body of finished artworks displayed in an exhibition organized by the student. コースの全過程で、歴史的、現代的、文化的コンテクストなど多様な背景を通して美術作品を精査する。自己探求で独自にリサーチを展開し、美術作品として具現化し、生徒が企画する作品展示という形で発表する。

IB Assessment 評価

40% Internal Assessment 内部評価	60% External Assessment 外部評価
<ul style="list-style-type: none">● Exhibition 展示会	<ul style="list-style-type: none">● Comparative Study (20%) 比較研究● Process Portfolio (40%) ポートフォリオ

Comparative Study 比較研究

Students analyze and compare different artworks by different artists. This independent critical and contextual investigation explores artworks, objects and artifacts from differing cultural contexts. 違った作家の違った作品群を比較分析する。違った文化背景の美術作品、オブジェクト、工芸品について分析的にコンテクストをたどりながら探求する。

Process portfolio プロセスポートフォリオ

Students submit selected materials which evidence their experimentation, exploration, manipulation and refinement of a variety of visual arts activities during the two-year course. 2年間のコース中に扱う美術作品作成に向けての実験的試行、探索、操作、仕上げの過程を追って軌跡を資料化する。

Exhibition 展示会

Students submit for assessment a selection of resolved artworks from their exhibition. The selected pieces should show evidence of their technical accomplishment during the visual arts course and an understanding of the use of materials, ideas and practices appropriate to visual communication. 最終的に評価の対象となる美術作品を展示会用として準備する。技術的な到達点を示し、美術的コミュニケーションとして適切な表現ができるように材料の活用方法、アイデア、実践に言及する。

Art fee

In April of 2Z we collect 18,000円 from each Art student to cover the cost of basic supplies. 美術選択者から2年間の美術材料費として集金します。個人として必要な特殊な画材は個人負担となります。

13. Theory of Knowledge -- TOK (知の理論)

The aims of this course are TOKコースの目標は次のとおりです。

- to encourage students to reflect on the central question, “How do we know that?”, and to recognize the value of asking that question 「どうして私たちは知っているのか」という中心的な質問を振り返り、その質問をすることの価値を認識するように促します
- to expose students to ambiguity, uncertainty and questions with multiple plausible answers 複数のもっともらしい答えを伴う曖昧さ、不確実性、質問にさらす
- to equip students to effectively navigate and make sense of the world, and help prepare them to encounter novel and complex situations 効率的に人生を歩んで世界について理解できるようにし、斬新で複雑な状況に遭遇する準備を支援する
- to encourage students to be more aware of their own perspectives and to reflect critically on their own beliefs and assumptions 自分の視点をより意識し、信念や仮定を批判的に考えるように促す
- to engage students with multiple perspectives, foster open-mindedness and develop intercultural understanding 複数の視点で生徒を引き込み、広い心を育み、異文化理解を深める
- to encourage students to make connections between academic disciplines by exploring underlying concepts and by identifying similarities and differences in the methods of inquiry used in different areas of knowledge 基礎となる概念を探求し、知識のさまざまな分野で使用される探究の方法の類似点と相違点を特定することにより、知識が基づく分野間のつながりを自分の中に築くことを奨励する
- to prompt students to consider the importance of values, responsibilities and ethical concerns relating to the production, acquisition, application and communication of knowledge. 知識の産出、獲得、適用、伝達に関連する価値観、責任、倫理的懸念の重要性を考えさせる。

Course Description コース説明

The TOK course provides students with an opportunity to explore and reflect on the nature of knowledge and the process of knowing. It is a core element of the DP to which schools are required to devote at least 100 hours of class time. TOKコースは、知識の本質とプロセスを探求し、熟考する機会を生徒に与えます。最低100時間の授業が必要なDPの中核となる要素です。

In TOK, students reflect on the knowledge, beliefs and opinions that they have built up from their years of academic studies and their lives outside the classroom. The course is intended to be challenging and thought-provoking—as well as empowering—for students. TOKでは、生徒は、これまでの学校と学校以外での経験から蓄積した知識、信念、意見を振り返ります。このコースは、生徒にとってやりがいがあり、考えさせられるだけでなく、力を与えることを目的としています。

Note: This is a new curriculum and it differs considerably from the previous one.

注：これは新しいカリキュラムであり、以前のカリキュラムとは大きく異なります。

IB Assessment 評価

33% Internal Assessment 内部評価	67% External Assessment 外部評価
● TOK exhibition 展示 (33%)	● TOK Essay TOKエッセイ (67%)

D. Various Policies and Explanations 各種評価方針と評価概要

1. Diploma Assessments DP評価

1.1 Types of DP Assessment 評価の種類

DPには、さまざまな種類の評価があり、その位置づけ、最終的な評価者、評価の通知方法によって評価名や最終評価の組成が違ってきます。各評価の重要度を把握して取り組んで行く必要があります。主な評価タイプは次のとおりです。

(評価の一般的な名称)

形成的評価と総括的评价

評価には、一般的に形成的評価と総括的评价とがあり、その区別と重要性を認識する必要があります。形成的評価は、生徒が学習目標に到達できるよう学習過程を通して用いられる最終評価までの途上の評価を指します。総括的评价は、生徒の学習と到達度の内容を発達させることを目的とし評価規準を用いたある時点までの総括の最終評価です。本校では、ディプロマ取得に向け、暁秀成績を決定するための評価を実施します。最終のディプロマ結果は総括評価です。それに至るまでの評価は、形成的評価です。また一方で、各学期の暁秀の成績は総括評価で、それに至る種々の評価は形成的評価です。最終のDPスコアに向けての各学期の暁秀成績は、形成評価という位置づけとなり、各学期の暁秀成績は、そこまでの形成評価の集大成の総括評価と言えます。

(最終DPスコアの組成)

DP内部評価 (IA)

内部評価内容は、IBが教科ごとに定めています。まず、IB規定の評価規準に基づいて教科担当者が評価し、IBがモデレーション（評価のチェック）を実施して評価の精度を調整します。多くの教科において、生徒の最も良い学習成果を代表した内部評価のみが提出されます。

DP外部評価 (EA)

外部評価の代表格は、最終のDP試験で、IB総括的评价でありコース修了時に実施されます。IBの試験官が採点します。アートの審査とTOKを除き、試験会場で受験するタイプのものです。

(**暁秀成績の組成**)

定期試験

期末試験と学年末試験がこれに該当します。累積的な試験となり、試験範囲はその時点まで学習した内容となります。最終のDP試験を意識した試験内容となります。

パフォーマンス課題 (Performance Tasks)

成績期間を通して課され、試験とともに主な評価対象となります。中間テスト、エッセイ、実験、リサーチワークブック、口頭試験、単元テストなど評価規準に基づいた評価を含みますが、それらに限定されるものではありません。これらの一部が内部評価として活用され、その他の内容は、内部評価や外部評価に向けての準備の意味合いがあります。

努力点 (Effort)

生徒の努力点は、評価規準に基づいて評価します。生徒の自己評価も参照します。

1.2 Internal and External Assessment Weightings 最終DP評価の組成 ◎内部評価と★外部評価

教科	◎内部評価 (IA)	★外部評価 (EA)	教科	◎内部評価 (IA)	★外部評価 (EA)
English A Lang & Lit HL	30%	70%	Physics HL	20%	80%
Japanese A Lit HL	30%	70%	Physics SL	20%	80%
English B HL	30%	70%	Math AA HL	20%	80%
Mandarin <i>ab initio</i> SL	25%	75%	Math AA SL	20%	80%
Japanese <i>ab initio</i> SL	25%	75%	Math AI SL	20%	80%
History HL	20%	80%	Visual Arts HL	40%	60%
History SL	25%	75%	Visual Arts SL	40%	60%
Chemistry HL	20%	80%	TOK Essay	33%	67%
Chemistry SL	20%	80%	Extended Essay		100%

1.3 Internal Assessment ◎内部評価

下記の表は、各教科における内部評価の内容です。

English A Lang & Lit HL	Oral commentary (15%) Oral presentation (15%)	Physics HL	10 hours of individual investigation (20%)
Japanese A Lit HL	Oral commentary (15%) Oral presentation (15%)	Physics SL	10 hours of individual investigation (20%)
English B HL(30%)	Individual oral (20%) Interactive oral activity (10%)	Math AA HL	Mathematical Exploration (20%)
Mandarin <i>ab initio</i> SL	Individual oral (25%)	Math AA SL	Mathematical Exploration (20%)
Japanese <i>ab initio</i> SL	Individual oral (25%)	Math AI SL	Mathematical Exploration (20%)
History HL	Historical investigation (20%)	Visual Arts HL	Exhibition (40%)
History SL	Historical investigation (25%)	Visual Arts SL	Exhibition (40%)
Chemistry HL	10 hours of individual investigation (20%)	TOK	Exhibition (33%)
Chemistry SL	10 hours of individual investigation (20%)	EE	---

内部評価手順のまとめ (TOKを除く¹⁾) :

- i) 教科担当者がすべての内部評価を実施します。
- ii) たいていの場合、生徒を含む場合もあるが、教科担当者が、生徒の学習成果を最も良く表す内部評価物とその評価を選択します。
- iii) スコアはDPコーディネーターが集約し、IB情報システム (IBIS) を介してIBCAに提出します。
- iv) IBISが内部評価のモデレーション (確認調整) サンプル対象となる生徒のリストを作成し、DPコーディネーターに知らせます。
- v) DPコーディネーターは、各学校の教員が一貫した理解に基づき適切に評価しているかどうかを確認するための再評価を実施するIBアシスタントモデレーターに生徒作品のサンプルを郵送します。
- vi) アシスタントモデレーターは、アシスタントモデレーターの評価を確認するチーフモデレーターにサンプルの中の更なるサンプルを送付します。
- vii) 学校の教科に対する成績は、このような確認手順にのっとって管理されています。

¹ TOK発表は記録されたり、モデレーションのために送付されることはありません。しかし、モデレーションを実施するために、IBが訪問する場合があります。

1.4 External Assessment ★外部評価

下の表は、DP教科の外部評価のまとめです。EE、美術とTOKを除いた全ての教科の外部評価は、主に11月に実施される全世界統一試験に基づきます。

English A Lang & Lit HL	Examination paper 1 (25%) & 2 (25%)	Physics HL	Examinations paper 1 (20%), 2 (36%) & 3 (24%)
Japanese A Lit HL	Examination paper 1 (20%) & 2 (25%)	Physics SL	Examinations paper 1 (20%), 2 (40%) & 3 (20%)
English B HL	Examinations paper 1 (25%) & 2 (25%)	Math AA HL	Examinations paper 1 (30%), 2 (30%) & 3 (20%)
Mandarin <i>ab initio</i> SL	Examinations paper 1 (30%) & 2 (25%)	Math AA SL	Examinations paper 1 (40%) & 2 (40%)
Japanese <i>ab initio</i> SL	Examinations paper 1 (30%) & 2 (25%)	Math AI SL	Examinations paper 1 (40%) & 2 (40%)
History HL	Examination paper 1 (20%), 2 (25%) & 3 (35%)	Visual Arts HL	Comparative study (20%) Process portfolio (40%)
History SL	Examinations paper 1 (30%) & 2 (45%)	Visual Arts SL	Comparative study (20%) Process portfolio (40%)
Chemistry HL	Examinations paper 1 (20%), 2 (36%) & 3 (24%)	TOK	Essay (67%)
Chemistry SL	Examinations paper 1 (20%), 2 (40%) & 3 (20%)	Extended Essay	Essay (100%)

外部評価の主な手順（美術、自由課題論文、TOK、英語・国語のエッセイ部分を除く）：

- i) 11月の統一試験を受験します。
- ii) DPコーディネーターが試験終了後24時間以内にIB採点者に試験を郵送します。
- iii) 複数レベルでIB採点者が試験を採点します。
- iv) IBモデレーション担当者が採点者の評点を確認調整します。
- v) IBCAが1月に結果を発表します。

1.5 CAS 創造性・活動・奉仕と Extended Essay 課題論文の評価

本校CASコーディネーターがCASの内部評価を実施し、CAS要件を満たしていない生徒についてはDPコーディネーターがIBシンガポールに報告します。本校CASコーディネーターのCAS評価と指導が適性かどうかは、生徒が学習成果について記した文書サンプルを学校が定期的にIBシンガポールに提出しモニターされることで確認されます。EE指導教員は、各課題論文に対してアルファベット（A-E）で成績をつけます。これらの成績はIBに提出し、すべての論文に対してIBによる外部評価が実施されます。

1.6 Failure to Submit DP Assessment Tasks DP内部評価課題と外部評価課題の提出について

課題の提出

正当な理由（事故や病気、災難等）により、IA課題を完成できない場合は、できるだけ早く教科担当に文書で連絡し、提出期限の延期申請をします。休暇やコンピューター/プリンターの故障などの事情による準備時間不足は、提出期限の延期の正当な理由とはなりません。病気の場合、期限延期の申請書には診断書を添付して提出します。「申請したという行為」が、自動的に「承認」を意味するものではありませんので注意が必要です。承認後、延期後の提出期限が設定されます。

生徒がIA課題を提出しない場合、IBへの課題提出ができないこととなります。これにより、ディプロマ取得の可能性が脅かされることとなります。また、この手順やこのことが暁秀成績に及ぼす影響については、「パフォーマンス課題の未提出に対するペナルティー」を参照してください。

課題論文（EE）と知の理論（TOK）エッセイのうちいずれかでも提出しなかった場合、ディプロマを取得することができません。

内部評価課題（IA）提出日の欠席

IA課題の提出期限日に欠席した生徒は、教科担当者に直接欠席の説明をする必要があります。IA課題の提出を受け入れる場合でも、DPコーディネーターとクラス担任の判断により、保護者に連絡を取ったり、診断書を求めたりすることもあります。

外部評価課題（EA）提出日の欠席、あるいは未提出

外部評価課題を提出しなかったり、提出日に欠席した場合、欠落した評価要素に対して成績はできません。このことは、ディプロマ取得の可能性を著しく脅かすことになりえます。情状酌量すべき事情がある場合、IBの承認を得て、外部評価試験の再受験が可能なこともあります。

1.7 Failure to Submit Performance task パフォーマンス課題の未提出に対する学内ペナルティー

- i) 生徒が授業を欠席した際、パフォーマンス課題が課されているかどうかを確認するのは欠席した生徒の責任となります。
- ii) 課題を提出しない妥当な理由があり、期限の延期を求める場合、保護者や医師による状況を説明した手紙を提出する必要があります。教科担当者が、期限の延期を承認した場合、学期期間中に新しい提出期限が設定します。教科担当者は、新しい期限を記録しておきます。
- iii) 正当な理由もなくパフォーマンス課題の締め切りを守らなかった生徒は、課題を提出しなかった理由を教科担当者に説明し、スタディホールでパフォーマンス課題に取り組みます。スタディホールの終了時に、取り組んだ課題を教科担当者に提出します。この課題は総括的評価に用いられることもあります。下記のペナルティーを参照してください。
- iv) 正当な理由もなく提出期限後にパフォーマンス課題を提出した生徒には、下記表の成績ペナルティーを適用し、表に基づいた対応が取りまます。これらの成績ペナルティーは暁秀成績表にのみに影響します。

パフォーマンス課題未提出に対する学内ペナルティー

提出日	暁秀成績におけるペナルティー	対応
授業時間やManageBacの提出期限には間に合わなかったが、その日のうち（教員就業時間内）に提出した場合	10%	<ul style="list-style-type: none"> ● スタディホールへの参加
提出期限の次の日に提出した場合	25% 減点	<ul style="list-style-type: none"> ● DPコーディネーターに報告
提出期限の2日後（教員就業時間内）に提出した場合	50% 減点	<ul style="list-style-type: none"> ● DPコーディネーターに報告 ● クラス担任に相談
提出期限の3日後（教員就業時間内）に提出した場合	「0点」	<ul style="list-style-type: none"> ● DPコーディネーターに報告 ● クラス担任に相談 ● 提出しなかった日のスタディホールで完成させた課題は、内部評価用として評価します。

2. CAS 「創造性・活動・奉仕」

「創造性・活動・奉仕」の学習

…何かを信じるならば、ただ考え、話し、書くだけでなく、行動しなければならない。（Peterson 2003）

「創造性・活動・奉仕」（CAS）は、DPの「コア」を構成する3つの必修要件の1つです。生徒は、プログラムを通じて、教科学習と同時並行して多岐にわたるCASの活動を行う。CASは、以下の3つの要素で構成されている。これらの3つの要素は、活動の中で、さまざまに組み合わせられている。

- 創造性（creativity）：創造的思考を伴う芸術などの活動
- 活動（activity）：DPでの教科学習を補完し、健康的なライフスタイルの実践を促す身体的活動
- 奉仕（service）：学習に有益であり、かつ無報酬で自発的な交流活動。すべての関係者の権利、尊厳、自律性を尊重

CAS 学習成果として設定されている内容

学びの成果1	自分の長所と成長すべき点を認識する さまざまな能力とスキルをもった個人として自分のことを見ることができ、能力やスキルのなかには比較的得意なものとそうでないものがあることを自覚している。
学びの成果2	課題に挑戦し、その過程で新しいスキルを習得している 挑戦する課題とは、これまでにしたことのないものでも、過去の経験を発展させたものでもよい。新しく習得したスキルは、未経験なもの、あるいは経験したことのある分野を向上させることで得たものでもよい。
学びの成果3	自らCASを計画し開始することができる ひとつまたは一連の経験のCASの活動としてのアイデアを思いついた段階から、計画を実行する段階までを、詳細に説明することができる。これは他者と共に活動を行い達成されることでもよい。過去の経験を発展させたり、新しいアイデアやプロセスを考案したりすることで、自らの知識や認識を示すことができる。
学びの成果4	CAS活動を継続し、やり遂げる粘り強さを示す CAS活動に定期的にかかわり、積極的に取り組んでいることを示す。
学びの成果5	自らのスキルを活かし、また他者と共に活動する意義を認識する CAS活動を通じて学んだ、他の人々と共に働くことの良さと難しさを明確に提示し、それについて客観的に論じることができる。
学びの成果6	グローバルな課題に取り組む グローバルな課題を認識し、それらに対する自らの考えを示し、責任感のある決断をして、地域、国、または国際的なレベルで問題に対応する適切な行動をとることができる。
学びの成果7	選択と行動の倫理を認識し、考察する CAS活動を計画・実践するなかで、自分の選択や行動には結果が伴うと認識していることを示す。

CAS関連で生徒にまかされていること

生徒の責任で実施すべきことは、3つで活動の選択、時間と3領域のバランス、記録で

す。

活動の選択

1. 学習成果を意識した活動とする。
2. 活動には監督者が必要
3. 活動には明確な目標を設定し、目標達成のための計画を立てる
4. 達成可能かつ自分にとって一歩上の活動とする
5. 単発ではなく、継続的な取り組みが望ましい
6. 活動は現実的で重要な成果目標をもたせる
7. 活動は他者との協働を要素を含む
8. 活動は生徒がリードすることとする
9. 活動は無報酬
10. 家族の手伝いや家の仕事は該当しない
11. 宗教の勤行、布教活動は該当しない
12. 教科内容からヒントを得て活動をすることは可能だが、教科活動の一部や自由課題論文をCASとしてカウントすることはできない。
13. CASコーディネーターやIBが何がCASに該当するかを決める。CAS認定書にCASコーディネーターがサインするまではCASとして活動認定されない。

時間とバランス

創造性、活動、奉仕の3領域のバランスを考える。最重要は取り組みの姿勢。実際に誠実に関わっていくことでより良く平和な世界を築く働きに貢献する。

活動の証拠記録

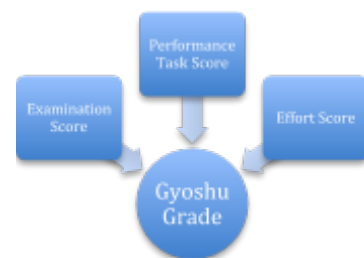
- 学習成果の証拠をデジタルでマネージバックにアップロードする
<https://gyoshu.managebac.com>.
- 証拠の内容例として、ジャーナル、ブログ、ウェブサイト、YouTubeファイル、写真、その他のデジタルファイルを含む。オーディオビジュアル系の内容は、どの成果を意図するかを明確にする。
- 各ジャーナル記述は、1つの成果を選択して記録する。
- 特定の活動について特定の1つの成果を決めている場合は、ジャーナル記載はそれについてのものを記載する。
- 3Zの10月中旬までに各学習成果項目について最低3つの質の高い証拠が必要。
- 証拠として提出する文書は、各150語以上とする。

学習成果の証拠は、マネージバック<https://gyoshu.managebac.com>に活動後2週間以内に入力する。(注 <https://gyoshu.managebac.com> では、自動的に入力日時が記録されます)

3. Gyoshu Grade 評価通知指針： 暁秀評価

毎学期末に教科ごと10段階評価の暁秀評価を出します。この成績は、通知表で知らせ、学籍に残す評価となる。

暁秀評価は、期末試験結果、パフォーマンス課題・スコア、努力点を、学期ごとに合算して算出する。



3.1 IB Requirements 評価の報告方針とIB要件

IB要件と教育実践を反映させた評価通知

透明性	成績表と成績指針の公表
文書として示された規準に基づいた評価	総括評価と努力点は、規準に則って評価
評価内容の種類	試験点数、パフォーマンス・タスク、努力
傾向に基づく総合的判断(平均点ではない)	パフォーマンス課題を判断する。
総合的（累積的）評価と通知	累積的範囲の試験 総括的
2年間一貫性：一貫しているため比較が可能：生徒にとって公平性	試験点数、パフォーマンス課題、努力点に関して一貫した重み付け
教科間の一貫性 - 生徒、保護者、教員にとっての透明性と分かりやすさを高める。	試験点数、パフォーマンス課題、努力点の基準
成績には、努力点を反映することとして暁秀として設定している	努力点（10%としてつける）

3.2 Reporting Periods 成績を評価する期間

	学期	成績評価期間
2Z	1	1学期のみ
	2	2学期のみ
	3	1年間
3Z	1	1学期のみ
	2	1学期と2学期
	3	1年(2学期と同じ)

3.3 Weighting 暁秀成績

試験、パフォーマンス課題、努力点の比重は、以下の表に表示する。

教科	試験スコア	パフォーマンス課題スコア	努力点
日本語A HL	45% (2Z 1~2学期; 3Z 1 学期)	45% (2Z 1~2学期; 3Z 1学期)	10%
	30% (2Z 3学期; 3Z 2-3 学期)	60% (2Z 3学期; 3Z 2-3学期)	
英語A HL	40%	50%	10%
英語B HL	40%	50%	10%
日本語初級 SL	40%	50%	10%
中国語 初級SL	60%	30%	10%
歴史 HSL	40%	50%	10%
化学 HSL	40%	50%	10%
物理 HSL	40%	50%	10%
数学AA AI HSL	40%	50%	10%
美術HSL	----	90%	10%
		<table border="0"> <tr> <td>比較研 究 18%</td> <td>制作過程 ポートフォリ オ 36%</td> <td>Studio 36% 作品制作</td> </tr> </table>	
比較研 究 18%	制作過程 ポートフォリ オ 36%	Studio 36% 作品制作	
ToK 知の理論	----	90%	10%

3.4 Examination Score 試験と試験スコア

ToKと美術以外について定期試験を実施

DP最終試験の準備をやすくするように、期末と学年末の試験はそこまでの総括的累積的評価となる。

試験点数をつける際、直近の累積的試験を評価対象とし(中間試験は、パフォーマンス課題として扱う)。下の表は、実施する試験を学期ごとに提示。3Zの1学期、2学期において、モック・イグザム(DP模試)を実施しその結果は、試験点数として算出する。

試験スコアは、パーセント表示。

学期	1年目(2z) 一学期	1年目(2z) 二学期	1年目(2z) 三学期	2年目(3z) 一学期	2年目(3z) 二学期
実施試験	中間 (パフォーマンス課題)	中間 (パフォーマンス課題)	学年末 (累積的)	DP模試 (累積的)	DP試験 (累積的)
	期末(累積的)	期末(累積的)			
試験 スコア 対象	期末	期末	学年末	DP模試	

3.5 Performance Task Score パフォーマンス課題と、パフォーマンス課題スコア

パフォーマンス課題は、主要な評価対象（累積的試験を除いて）であり、それぞれの規準に基づいて成績がつけられます。エッセイ、実験、調査ワークブック記録、口頭試験、中間、単元テストなどが対象となりますが、これらに限定されるものではありません。）ただし、小テストや練習問題のような課題は該当しません。

パフォーマンス課題スコアをつけるにあたっては、様々なパフォーマンス課題の学習成果を踏まえ、生徒のパフォーマンスを適切に反映した判断をします。教師はどの課題がパフォーマンス課題スコアの対象となるかを事前に生徒に知らせます。

総括的評価としてのパフォーマンス課題を特定するとき、以下の点が重要です。

- 十分な数のパフォーマンス課題を実施します。課題が多いほうが、パターンを特定しやすい。
- パフォーマンス課題と判断されるものは、同等の規準で成績を付ける。異なる規準で成績が付くタスクを比較するのは非常に難しい。

教師は、総括的評価の評価規準に適合するパフォーマンス課題を考案します。しかし、教科によっては、同じではない規準のパフォーマンス課題をだす必要もあります。その場合、教師は、タスクを規準ごとに分類してそれぞれの規準カテゴリーごとに、評価の比率を決めます。

3.6 Effort Score 努力点

全ての教科において、下記の規準内容を用いて、努力点（エフォートスコア）を評価します。努力点は、評価対象期間の最後に決めます。 **Effort Score エフォートスコア**

All subjects are required to assess effort using the grade descriptors below. Effort Scores are determined at the end of a reporting period for the entire reporting period. 全ての教科において、下記のグレード別内容を用いて、エフォートスコアを評価する必要がある。エフォートスコアは、評価対象期間の最後に決める。

	Task Engagement	Attitude	Preparedness	Homework	Seeks help
1-2 Unacceptable	Rarely on task and focused on assigned work even with teacher remindersほとんどの場合、教師から注意を受けても、タスクや課題に集中して取り組めない。	Rarely exhibit a positive and respectful attitude towards learning, teachers and fellow studentsほとんどの場合、学習、教師や他の生徒に対して、前向きで礼儀正しく振舞うことが出来ない。	Rarely comes to class prepared in every way needed, even with outside monitoringほとんどの場合、外からの監視があったとしても、授業に臨む準備があらゆる面で出来ない。	Rarely turns in homework on timeほとんどの場合、宿題を期限までに提出できない。	Never asks for assistance from the teacher教師に質問をしない。
3-4 Mediocre	Is not often enough on task/engaged with and focused on assigned work without undue teacher reminders時々、教師から注意を受けて、タスクや課題に集中して取り組めないことがある。	Occasionally exhibit a positive and respectful attitude towards learning, teachers and fellow students時々、学習、教師や他の生徒に対して、前向きで礼儀正しく振舞うことができる。	Does not often enough come to class prepared in every way needed, and requires outside monitoring to make this happen to a reasonable degree 授業に臨む準備があらゆる面で出来ないことがあり、外からの監視がある程度必。要となることがある。	Occasionally turns in homework on time時々、宿題を期限までに提出できることがある。	Occasionally asks for assistance from the teacher時々、教師に質問をする。

<p>5-6 Satisfactory</p>	<p>Is generally and satisfactorily on task/engaged with and focused on assigned work without undue teacher reminders ほとんどの場合、満足の行くレベルで、教師から注意されることなくタスクや課題に集中して取り組んでいる。</p>	<p>Generally exhibits a positive and respectful attitude towards learning, teachers and fellow students, whether internally or externally motivated to do so ほとんどの場合、内面的外面的なやる気に関わらず、学習、教師や他の生徒に対して前向きかつ礼儀正しくふるまっている。</p>	<p>Generally comes to class prepared in every way needed, and accomplishes this with no undue degree of outside monitoring needed ほとんどの場合、授業にあらゆる面で準備してのぞんでおり、外的な厳しい監視がなくても実行できている。</p>	<p>Generally turns in homework on time ほとんどの場合、期限内に宿題を提出する。</p>	<p>Ones every two or three weeks asks for assistance from the teacher 2週間または3週間に1回、教師に質問をする。</p>
<p>7-8 Good</p>	<p>Almost always on task/engaged with and focused on assigned work without teacher reminders; occasionally may seek out additional learning opportunities beyond those immediately given in a lesson ほとんどの場合、教師の注意なくタスクや課題に集中して取り組んでおり、時折授業以外にも更なる学習の機会を追求している。</p>	<p>Almost always exhibits a positive and respectful attitude learning, teachers and fellow students, and generally internally motivated to do so ほとんどの場合、学習、教師や他の生徒に対して、前向きで礼儀正しくふるまい、大抵において内面的にやる気が認められる。</p>	<p>Almost always comes to class prepared in every way needed, and accomplishes this with little to no necessary outside monitoring needed ほとんどの場合、授業にあらゆる面で準備できており、外的な監視があまりなくても実行できている。</p>	<p>Almost always turns in homework on time ほとんどの場合、期限内に宿題を提出している。</p>	<p>Attends tutorials regularly or regularly asks for assistance from the teacher in class ほとんどのチュートリアルに参加し、教師に質問をする。</p>

9-10 Excellent	Always on task/ engaged with and focused on assigned work without teacher reminders; indeed, seeks out additional learning opportunities beyond those immediately given in a lesson いつも、教師の注意なくタスクや課題に集中して取り組んでおり、実際に授業以外にも更なる学習の機会を追求している。	Always exhibits a positive and respectful attitude learning, teachers and fellow students, and internally motivated to do so. いつも、学習、教師や他の生徒に対して、前向きで礼儀正しくふるまい、大抵において内面的にやる気が認められる。	Always comes to class prepared in every way needed, and accomplishes this with no necessary outside monitoring needed いつも、授業にあらゆる面で準備できており、外的な監視が全くなくても実行できている。	Always turns in homework on time 。 いつもチュートリアルに参加し、いつも教師に質問をする。	Attends tutorials regularly and regularly asks for assistance チュートリアルに参加し、教師に質問をする。
-------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------

3.7 Calculating the Gyoshu Grade 暁秀成績の算出

暁秀成績の計算について評価対象期間の試験スコア、課題スコア、努力点を足して、暁秀成績の素点を出します。素点を、以下の表から暁秀成績へと換算します。



暁秀成績換算表

暁秀素点	暁秀成績	暁秀素点	暁秀成績
0	1	50- 59	6
1-19	2	60- 69	7
20-29	3	70- 79	8
30-39	4	80-89	9
40- 49	5	90-100	10

3.8 Special Educational Needs 特別な教育的配慮

It is important to communicate with us through the homeroom teachers if your child has (or you suspect has) special educational needs. お子さんに関して、特別な教育的配慮が必要な場合やその可能性がある場合は担任を通して学校にご連絡ください。

SENs include learning issues like dyslexia or ADHD; psychological issues like depression; physical issues like long term illnesses; or hearing or visual challenges. 特別な教育的配慮が必要なケースとは、具体的には、失読症、ADHD、うつ傾向など心理的な事項、また、慢性的病気、聞こえ、視力に関する問題など身体関連の事項を含みます。

Not all of these SENs are easily noticeable, but they can seriously affect learning. 特別な教育的配慮を要する状況が、明確に察知できるとは限りませんが、学習に深刻な影響が出ている場合はあります。

It is important that we know of SENs because... 特別な教育的配慮が重要であるとする理由は、

- there may be instructional, procedural, or structural changes teachers can make to accommodate for SENs; 特別な教育的配慮として、教授法、手順、組織的な面で工夫をすることができます
- in some situations it may be possible for your child receive assessment accommodations for official DP assessments — these do not change the criteria or nature of the assessment, but are intended to make assessments fairer. 場合によっては、DPの正式評価の場面で、評価面での配慮をしてもらえる可能性があるかもしれませんが、評価規準や評価の質を変えるというわけではありませんが、公平に評価をする工夫をすることになります。

4. Diplomas, Results and Transcripts 大学進学関連：ディプロマ、試験結果、成績証明書

4.1 IB Diploma ディプロマ

本校では、2Zと3Zの生徒は全員をディプロマ候補生として登録します。部分的にDP教科を選択することはできません。IB評価方針で設定されているIBディプロマ要件を満たす生徒は、IBディプロマを取得します。ディプロマ証書は、2月にIBから本校に送付され、3月の卒業式の際に生徒に授与します。

4.2 IB Bilingual Diploma バイリンガルディプロマ

次の要件を満たした生徒は、IBバイリンガルディプロマが授与されます。

(1) IBディプロマ要件を満たしている。

且つ、

(2) グループ1から2つの言語コースを履修し、双方における成績が3以上である。

あるいは、

(3) グループ3やグループ4から1つの科目をグループ1で選択した言語とは異なる言語で履修し、グループ1の言語とグループ3, 4の科目における成績が3以上である。

4.3 Results **ディプロマ結果**

DPコーディネーターが、DP結果を生徒に通知します。

ディプロマを取得した生徒もそうでない生徒も全員、DPスコア結果を公式のIB成績証書として受け取ります。この成績証書と要件を満たしてフルディプロマを取得した生徒にはディプロマ証書も授与されます。証書は、IBから送付され3月の卒業式の日授与します。

4.4 Enquiry upon results **再採点**

生徒は、ウェブサイト上で個々の結果を閲覧することができます。（アクセス方法については、3Zの4月にDPコーディネーターが説明します。）各セクションの結果スコアが成績換算表のボーダーにどの程度近いことや自己評価を加味して分析し、再採点の手続きをとることができます。採点をやり直してもらうことによって成績が変更される可能性があります。再採点を依頼したい生徒は、DPコーディネーターに相談します。

DPコーディネーターと教科担当者もDP結果を分析し、再採点することによって成績が上がるかもしれないと思われる生徒には個別に通知します。

この再採点では、成績が上がる可能性がある一方で、成績が下がる可能性があることも注意してください。

再採点の依頼に対しては、IBから追加料金が徴収されます。

4.5 Re-sits **再試験**

試験や内部評価課題の再試験申請をする生徒もいます。生徒はまた、知の理論の規定のタイトルや、課題論文の再提出を選択することもできます。再試験は11月試験の次の試験期間の5月に行われます。再試験について関心のある生徒は、DPコーディネーターに相談します。

再試験に関しては、IBから追加料金が課され、再試験の結果が最終スコアとして決定されます。

4.6 Predicted Grades **見込み点**

教科担当者は、10月に生徒の見込み点をIBに提出します。内部評価IAと模擬試験、場合によっては提出された外部評価EAを参照して見込み点を決めます。添付資料に掲載されている成績換算表は、各教科におけるそれぞれの成績に対する区間パーセンテージを設定し、IAやEA、模擬試験のスコアを見込み点に換算する指標とします。

これ以外にも一年を通して、教師は、DPコーディネーターにその時点までの見込み点を提出します。これらは、次の目的で用いられます。

- 生徒のDP進捗状況を把握するため
- カレッジカウンセラーが進路指導に参照するため
- 国内大学DP入試出願のため。（調査書に高1からの5段階での成績が提示されます。評定平均値も記載されています。これに加えてDP見込み点の成績表も提出することになります。担任を通して作成願いを提出。様式指定の大学あり。）

- 海外大学出願のため（最終成績発表までは、見込み点が英語成績証明書に記載されます。）

3Zのすべての生徒は、一学期に非公式の見込み点を受け取り、進路選択の資料とします。

4.7 High School Transcripts 高等学校卒業証書・成績証明書（調査書）

3月の卒業時に、文部科学省に基づく暁秀の卒業要件を満たした生徒は、本校卒業証明書が授与されます。一般入試以外の国内大学出願のためには、高校1年からの5段階の成績記載がある調査書の提出が必要です。

4.8 Transcripts 本校の成績証明書（英語表記）

海外大学へ出願する場合、他の出願書類とともに学校が発行する成績証明書の提出が必要となる。この英語成績証明書には、中学3年からの高校3年までの4年間の暁秀成績、各学年時の出欠席日数、各学年の暁秀成績から計算した成績平均点（GPA）、MYP成績、IB見込み点/IB最終成績、TOEFL/IELTSなどのスコア、SATスコアが記載される。この成績証明証は、カレッジカウンセラーを介して入手できる。

6.9 IB Transcripts IBの成績証明書（IBで発行する）

出願する大学・教育機関は、IBが発行する公式のIB成績証明書を直接IBから通知を受けられるよう指定する。

規定の締め切り期限前にIBに依頼すれば、無料で一定数の最終IB成績証明書を大学に直接送付（送信）できる。発行を依頼する場合は、DPコーディネーターに相談し、成績証明書発行願を提出する。

規定の締め切り期限後、あるいは、無料の発行数を越えて成績証明書の発行を依頼する場合、生徒は個別に所定のフォームに入力後、送信し、必要な費用を自分で支払う必要がある。

「IB成績証明書の発行願」締め切りと手順

国	締め切り日	無料発行分	締め切り前	締め切り期日後
カナダ、米国、シンガポールを除くすべての国	11月1日	世界で、無料分は6通まで。 イギリスについては、通常UCASに1通送るだけでよい。 カナダには1通、米国には1通	DP成績証明書発行依頼書をDPコーディネーターに提出する。	個別に下記のサイトから、IBに直接依頼する。費用が掛かる http://www.ibo.org/programmes/diploma-programme/assessment-and-exams/requesting-transcripts/
カナダと米国	1月1日			
シンガポール	2月15日			

6.10 Transcripts for Domestic Universities 出願先別成績証明書の種類

出願タイプ	出願時期	成績証明書種類	留意点
学校推薦	9月	調査書（評定平均値）	評定平均値、英語の力など、学校として推薦できる生徒
A0入試	8月1日～	調査書（評定平均値）	評定平均値、大学の設定する条件
DP入試	8月1日～	IB教科選択要件、調査書、見込み点（点数要件）	教科要件と点数要件を確認 仮合格後、最終スコアを提出
海外大学出願	11月末～ 英国9月出願あり 米国Early Admission 9月～出願あり	Transcript IB Transcript	教科要件と点数要件を確認 進学する大学に最終Transcript提出 IB TranscriptをIBから送信する手配

6.11 留意点

A0, DP, 学校推薦など8月～10月に集中する出願で、どのように出願するか熟慮する。

1. そこまでの自分の成績、実績と大学の要件をすりあわせる
2. IB見込み点は、1学期モック結果などを材料にして判断
3. 出願と結果通知のタイミング確認
4. 新タイプの入試が発表されるので、情報収集を徹底する

7. Support サポート内容

- Tutorials チュートリアル講習
- English Support classes 英語サポートクラス
- Homerooms ホームルーム
- Extra-classes 特別講習
- ManageBac マネージバック
- Student Planners スチューデントプランナー

8. What successful DP students do 成功実践例

- Daily motivate themselves to work hard さらに次を目指しながらやる気を見せる
- Ask for help 助けてもらう
- Plan ahead さきに計画を立てる
- Cooperate with peers: group work and study groups 仲間と協力する：グループワークやスタディーグループで協力しあう

9. 3Z IB Fees 試験料など

2020年の例

項目	内容	支払い 時期	金額（概算）	備考
DP 試験料	3 Z 全員	3Z 6月	840SGD 【シンガポールドル】 65,000円（2020年）	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校口座振込み レート変動考慮し振り 込み円額を設定しレ ート換算後清算 ● （2020年） 140 SGDの内訳 各教科 140 SGD
DP 再採点	希望者	3Z 3月	（2020年） 1 教科：350 SGD	DP コーディネーター と相談
DP 再試験	希望者	3Z 3月	（2020年） 登録料174 SGD 1 教科 140 SGD	DP コーディネーター と相談

10. 2Z Art Fees

In April of 2Z we collect 18,000円 from each Art student to cover the cost of basic supplies. 2Z
で美術選択者は、DP美術教材費として18,000円支払い基本的な美術教材をここから調達す
る。